定　着　の　条　件

山本いずみ，吉田英一郎*
留学生センター
（2002年9月2日受理）

The Condition of Linguistic Establishment

Izumi YAMAMOTO and Eiichiro YOSHIDA*
International Student Center
(Received September 2, 2002)

The purpose of writing this paper is to analyze the relationship between the linguistic establishment and the origin of lexicon and the learners' ability.

The meaning of words of Chinese origin are easily understood quite well when they are explained in Japanese class and the words of foreign origin is also understood in the same way.

The words which have traditional Japanese origin constitute the trunk of Japanese vocabulary. They sometimes have the wide range of meaning and it changes depend on the context. As the meaning of the vocabulary is not limited into small range, it seems to be difficult for foreign students to acquire its fundamental meaning. On the other hand, the meanings of the words of Chinese origin are comprehended quite easily especially for Chinese students because they can conjecture from the shape of characters.

The important point of learning Japanese traditional words is that they should repeat using them in different contexts.

0．はじめに

学部1年次に入学し日本人学生と同じ条件下で修学する外国人留学生にとって，日本人学生が日常用いる言語表現を理解することは，充実した留学生活を送り，豊かな人間関係を築く上で欠かすことのできない条件である。一方，日本人学生が日常用いる言語表現の中には，教科書等では取り上げられない，いわゆる，くだけた表現や流行語といったものが多数含まれる。こうしたものは，地域差や年齢・世代差などが大きく，時間とともに激しく変化していくために，一定の規範に基づいた学習項目として取り上げ，体系的に学習することが困難である。教科書で取り上げられない理由は，単に俗っぽいというだけではなく，その体系化の難しさにある。しかし，日本語を媒介にした円滑なコミュニケーションを考える場合，日常的な表現の獲得は，日本語学習者，特に上級の者にとっては重要なポイントとなる。

教科書等では補えない，日常言語との差を埋め，日本人（学生）との間に豊かな人間関係を築く一助とするため，「日本語演習Ｉ」の授業では，日本で一般向けに放映されているドラマを取り上げ，そこで用いられている語句やその背景となる日本社会・日本文化に対する理解を促すことを目的とした授業を行っている。ノーマル・スピードで行われ，時として複数の発話が重なることがあるドラマの会話も，スクリプトを用意し，タスク・シートを用いて要点を確認することで，かなり的確に把握することができる。「日本語演習Ｉ」では，極めて日常的な言語の様相の一端を，具体的なイメージを伴う画像として提示することで，そこで用いられる言葉（日本語）に対する理解を深め，初めて接する場合にも，ある程度予測できる能力を培おうと目論んでいる。

本稿では，この授業で用いたタスク・シートから，語句に関する項目を抜粋し，それらが語自体の性質（主に語種）や授業中に行う説明の有無，学習者の条件によりどのように定着していったかについて考察する。

1．授業の概要

本授業は，水曜日の1・2限および3・4限に開講されており，2つの授業は原則的に同内容で指導している。両

* 電気情報工学専攻博士前期課程2年次

表1　正答率と出席

No.	年次	出身国	項目総数	回答数	誤答数	正答率(%)	欠席	出席点
a	1	マレーシア	79	69	20	71	1	99
b	1	マレーシア	79	69	30	57	1	88
c	1	マレーシア	79	79	18	77	0	119
d	1	中国	79	79	13	84	0	120
e	1	中国	79	69	16	77	1	110
f	1	中国	79	69	21	70	1	108
g	1	中国	79	79	20	75	0	120
h	1	中国	79	69	7	90	1	110
i	1	中国	79	69	17	75	1	96
j	1	中国	79	69	10	86	1	108
k	1	中国	79	79	21	73	0	117
l	1	中国	79	79	23	71	0	109
m	1	中国	79	79	18	77	0	119
n	1	中国	79	79	19	76	0	120
o	1	中国	79	69	13	81	1	110
p	1	中国	79	79	20	75	0	120
q	1	中国	79	79	20	75	0	119
r	1	中国	79	79	27	66	0	113
s	2	中国	79	79	28	65	0	108
t	3	中国	79	79	10	87	0	114
u	4	中国	79	69	11	84	1	64
v	D	中国	79	79	35	56	0	118
w	D	中国	79	60	34	43	2	80
x	D	中国	79	60	12	80	2	80

授業を合わせた受講者総数は26名，その内訳は，学年で言えば，1年次20名・2年次1名・3年次1名・4年次1名・博士課程後期3名（注1），国別では，マレーシア3名・中国23名である。26名中1名は，入学前に他校で履修した科目が単位として認められたため，第6週以降の受講を取りやめており，また，もう1名は健康上の理由で受講を取りやめているため，実質的に対象となったのは24名である（注2）。

以下に，15週分の素材（注3）の一覧を示す。このうち，本稿執筆時点では，第13週の授業までが修了している。

日本語演習Ⅰの授業内容（ドラマ・タイトル）
第1週：＜事前テスト・ガイダンス＞
第2週：親切成金
第3週：友達登録
第4週：怪猫伝説*
第5週：のぞみ，西へ*
第6週：株式男
第7週：恐怖心理学入門*
第8週：銃男*
第9週：太平洋は燃えているか？*
第10週：さとるの化け物*
第11週：断定男*
第12週：夜汽車の男
第13週：おぞけ*
第14週：＜映画・釣りバカ日誌＞
第15週：＜復習・事後テスト＞
（*：本稿でデータとして取り上げたもの）

「*」マークで示したとおり，本稿で用いたデータは授業8回分である。各回，ストーリー展開や言い回しに関する設問に加え，語句の意味に関する設問を10項目ずつ用意した。本稿では，この語句の意味に関する設問項目をデータとした。最終的には79項目（1項目は正解なしのため削除）のデータを具体的な検討の対象として扱った。

2．出席と正答率

本授業では，出席を含めた受講態度も評価の対象の一部としており，毎回，遅刻時間を含め，厳密に出席をとっているため，欠席する者の数は極めて少ない。表1として，受講者別に正答率と出席との関係を示す。なお，出席点は，各回10点満点を持ち点とし，遅刻3分につき1点を減じる方式で算出したものである（120点満点）。30分を超える遅刻をした者および欠席者には，出席点はつかない（注4）。

表1を見る限り，正答率と欠席回数の間に際立った相関関係は認められない。皆出席の者が半数ほどおり，欠席は多くても2回というのでは，際立った差が認められないというのは，納得できる結果である。

これに対し，学習意欲をある程度反映している出席点と正答率の間には，特に1年次生において，多少の相関

関係が認められる。例えば，1年次生で正答率80%以上のｄ・ｈ・ｊ・ｏの出席点はそれぞれ120・110・108・110となっており，極端に出席点数が低い者は含まれていない。ただし，出席点がよい者が必ずしも正答率の高い者（よくできる者）とは言えない。やはり，学習者の日本語能力が影響する部分は大きい。

全体を通じ，正答率の最も低かったものは，「ちょっかい」の12%である。語種別に正答率の低いものを上げると，和語「ちょっかい」の他には，漢語「万一（注6)」55%，外来語「アバウトな」40%，混種語は「オブラートに包む」で50%となっている。逆に，正答率100%（全員正解）のものは，各語種1～2語見られる。

3．語種と正答率

タスクで取り上げた語79語に関し，授業内での説明（文脈に沿った語釈）の有無，文脈への依存度（文脈に左右され意味が異なる度合い），解答として選ばれた誤答（空欄回答を含む）の項目の総数，正答率（注5）を示した。それを，語の種類ごとにまとめ，正答率の低いものから順にソートした。表2－1・2・3・4である。

表2－1　漢語

No	週	語句	説明	文脈依存	正答率(%)	誤回答項目数
1	5	万一	無	○	55	7
2	7	自称	無	○	57	3
3	9	有数の	無		79	4
4	4	汚名	無		87	1
5	13	的中	無		87	2
6	11	不倫	無		90	1
7	5	じんましん	有		95	1
8	11	乗車拒否	無		95	1
9	5	副作用	有		100	0
10	13	放課後	無		100	0

表2－2　外来語

No	週	語句	説明	文脈依存	正答率(%)	誤回答項目数
1	11	アバウトな	有		40	5
2	13	アウトバーン	無		52	4
3	9	パラドックス	有	○	58	5
4	7	アドリブ	無	○	74	3
5	10	トリック	有	○	79	4
6	4	ゾンビ	有		83	1
7	7	スポット	有	○	91	1
8	8	ジェラシー	無		91	2
9	13	スカイダイビング	無		91	1
10	9	ニアミス	有		96	1
11	9	ローテク	有		96	1
12	13	ゲーセン	有		100	0

表2－4　混種語

No	週	語句	説明	文脈依存	正答率(%)	誤回答項目数
1	11	オブラートに包む	有	◎	50	5
2	8	調子にのる	無	○	59	6
3	10	縁起でもない	有		67	3
4	10	不意打ち	無		71	5
5	9	一矢を報いる	有		79	4
6	9	消息を絶つ	無		96	1
7	10	勘がいい	有		96	1
8	10	暖を取る	無		100	0

表2－3　和語

No	週	語句	説明	文脈依存	正答率(%)	誤回答項目数
1	10	ちょっかい	無	○	12	8
2	4	さえない	無	◎	13	3
3	4	ぐったり	無	○	26	3
4	11	煮え切らない	無	◎	35	6
5	5	死ぬほど～だ	無	○	36	3
6	5	驚づかみ	無	○	36	5
7	4	お決まりの	無		39	3
8	9	飛び火	無	○	42	2
9	7	どうどうどうどう	無	◎	43	6
10	8	程々にする	無		45	5
11	13	大穴	有	◎	48	4
12	5	堅苦しい	無		50	4
13	8	パア	無	◎	50	6
14	4	ぴんとくる	無		52	2
15	9	測り知れない	無	○	58	7
16	5	道のり	無		64	3
17	11	びしっと	無	◎	65	4
18	8	不渡り	有		68	5
19	4	愛想のない	無	○	70	2
20	4	へなちょこ	無	○	70	3
21	13	これしき	有		70	3
22	7	尾鰭をつける	有		74	1
23	10	粘る	有	◎	75	5
24	8	飛び込み	有	◎	77	3
25	4	とさか	無		78	3
26	9	闇に葬る	有	○	79	3
27	11	お見通しだ	有	○	80	2
28	5	上方	有		82	2
29	8	いざという時	有		82	4
30	7	身も蓋もない	有		83	2
31	10	山彦	有		83	2
32	11	赤字	有		85	3
33	5	ひしめきあう	有		86	3
34	5	過ぎたるは及ばざるが如し	有		86	1
35	8	肩書き	無		86	2
36	7	下地	有	○	87	3
37	7	たたずまい	無	○	87	3
38	10	潰れる	無	◎	87	3
39	13	子供じみる	有		87	1
40	11	水に流す	無	◎	90	2
41	7	サクラ	有	◎	91	1
42	8	高飛び	有	◎	91	1
43	9	間もなく	無		92	1
44	8	潰れる	有	◎	95	1
45	11	ぎりぎり	無		95	1
46	10	術がない	有		96	1
47	13	まぐれ	有		96	1
48	4	親方	有		100	0
49	13	お通夜	有		100	0

正答率の最も低いものが和語であることからも分かるように，留学生は全般的に和語が苦手なようである。特に漢字圏出身者が多い本学の留学生にとって，和語で表される表現はかなり理解しがたいものと言える。こうした学習者を対象として授業を続けて来た結果，タスク用に選択する語句は，自然と和語が多くなる。以下，語種別に具体的に例を挙げ，正答率の高低とそれを導き出した原因を探っていく。

3－1．漢語

漢語 10 語のうち，正答率が最低のものは「万一」で 55%，最高のものは「副作用」「放課後」で 100%（全員正解）であった。授業中に説明を加えたものは，「じんましん（蕁麻疹）」と「副作用」の 2 語だけであった。

漢語全体を見渡すと，説明を加えた語句は 10 語中 2 語のみであるにも関わらず，漢語全体の正答率は比較的高い。漢語はそこに用いられている漢字を見れば，ある程度その意味を理解できるため，授業中に説明を加えなくてもそれなりに正答を導きだすことができると考えられる。また，解答として選ばれた誤答項目の数も，「万一」の 7 項目を除けば，「自称」3 項目，「有数の」4 項目と少ない。漢語は，一語で覆う意味範囲が比較的狭いため，文脈に左右されずに意味を特定でき，ある限定された場面と結びついて使用されることが多い。このため，一旦，語句の意味を理解し，定着させてしまえば，その後は文脈等に依存して臨機応変に意味を取りなおす必要は少ないと言えよう。

なお，今回漢語として分類した「万一」は，「万一の場合」あるいは「万が一の場合」の縮約形であり，この点，他の漢語とはかなり趣が異なることを付け加えておく。

3－2．外来語

外来語 12 語のうち，正答率が最低のものは「アバウトな」で 40%，最高のものは「ゲーセン（ゲーム・センター）」で 100%であった。最低のもの，最高のもの，ともに授業中に説明を加えたものである。漢語同様，外来語も，一語が覆う意味範囲が狭い語が多いため，間違って解答として選択される項目の数が少ない。外来語は，一旦，語の意味を理解し，それが，具体物や具体的なイメージと結びついてしまえば，そのまま定着する可能性が高いと言えよう。

説明があったにも関わらず，「アバウトな」の正答率が低くなってしまったのは，説明の時点で，「アバウトな」を日本語に置き換えずに，単に「about な」と，英語を利用して説明してしまったことに起因するものと思われる。英語自体に対する理解能力に加え，英語の意味と日本語の意味のずれなどが二重に影響し，低い正答率となってしまった。

外来語全体としては，「パラドックス」など，日本人にとっても難しい語を除き，基本的には説明があれば分かる語が多く，漢語と同様の傾向を示している。

3－3．和語

和語 49 語のうち，正答率が低いものは，先述のとおり「ちょっかい」で 12%，最高のものは「親方」「お通夜」で 100%であった。「親方」と「お通夜」はともに授業中に説明したものであり，文脈により意味が左右されることが少ない語である。和語に限ったことではないが，説明したものの正答率が高くなるのは，予想される結果である。これに対し「ちょっかい」は，日本語を母語とするものであれば，幼い子どもでも理解できる語であるにも関わらず，日本語学習者にはなかなか内容が把握しにくいものとなっている。その理由として，「ちょっかい（を出す）＝ちょっとしたからかいの気持ちでかまう」という行為がさまざまな場面で起こりうるものであり，主体も対象もその度ごとに異なること，つまり，ある特定の具体的なイメージと結びつきにくいということが考えられる。

和語は，漢語や外来語に比べ，解答として選ばれた誤答の項目数が多い（注 7）。正答に対しては，それぞれひっかけの誤答が用意されているのだが，それに単純にひっかかってしまうのであれば，解答として選ばれる誤答の項目は 1 つだけである。その数が多いということは，単純にひっかけの誤答に引っかかってしまったのではなく，ひっかけの誤答さえ洗い出せない状態，他の質問項目のために用意されている解答項目にまで選択対象が広がってしまう状態，つまり，学習者が語句の意味の本質を把握しかねている状態と言えよう。

一般的に和語には俗っぽい言葉が多く含まれており，文脈次第では，特殊な意味を帯びて使用される。本稿の例でいえば，「高飛び」「飛び込み」などがその例といえよう。こうした言葉は，意味の本質を体得している日本語を母語とする者には，多少特殊な意味で使用されようとも，文脈さえ分かれば簡単に把握できるものであり，大きな抵抗なく使用できるものである。逆に，日本語学習者にとっては，その語の持つ意味の本質自体を把握し，その上で文脈に戻して発展的な意味を推し量らなければならないものであるため，なかなか馴染めない語であると言えよう。語の持つ意味の本質は，辞書的にいくつか用例を挙げながら解説することが可能ではあるが，的確に一言で述べることはなかなか困難であり，結局，多様な用例に触れることによって習得していく以外に道はないのであろう。が，逆に，こうした語は，いったん意味の本質を捉えてしまえば，文脈に寄り添って柔軟に解釈

することが可能であり，その後の応用はかなりきくものと判断される。

さらに，和語の中には，「ぴん」や「どうどう」「ぐったり」など，オノマトペやオノマトペに基づく語が多く含まれており，こうした語を理解するためには，言葉の響きが持つイメージ，語感を的確に把握する必要がある。これは，日本語を母語としない者にとっては至難の業である。

いずれにせよ，文脈に寄り添う形で意味を変化させることが多い和語は，日本語学習者にとって把握しにくいもののひとつとなっている。

3－4．混種語

今回混種語としてとりあげた8語の中は，「オブラートに包む」や「一矢を報いる」など，いわゆる定型的な言い方のものが多く含まれている。これらは，本来，語ではなく句と呼ぶべきものであるが，本稿では便宜的に語という言葉を用いる。

混種語で正答率が最も低かったのは「オブラートに包む」で50%，高かったものは「暖を取る」で0%であった。混種語に含まれる項目には，特殊な意味を帯びた定型句が多く，説明次第，あるいは辞書等の利用次第では，かなりの確率で正答が導きだせるものと考えられる。

今回，授業中に説明を加えたにも関わらず正答率が低かった「オブラートに包む」は，オブラートが何であるか，学習者たちが具体的に把握できなかったことに起因するものと思われる（注8）。また，漢字の字面から，比較的内容把握しやすいのではないかと思われた「調子に乗る」も，正答率が低かった。これは，かなり正答に近い，いわばひっかけの選択肢が用意されていたため，それに惑わされたためだと思われる。

混種語，特に，定型的な言い回しに関しては，事前の説明の有無が正答を導きだす上で大きく影響する，つまり，授業中の説明が有効に機能すると言えよう。

4．おわりに

授業で使用したタスク・シートを資料として，主に，語種という観点から，学習者がどのように言葉を把握し，自分のものとしていくかについて述べてきた。

教壇経験から培った勘からか，問題として選ぶ語には和語が多い。一般的に「難しい日本語」というと，漢語を数多く含む生硬な文章を思い浮かべるが，日本語学習者，特に漢字圏の者にとっては状況が異なる。これは，語種と定着との関係を検討する過程で，和語が，最も内容把握がしにくく，間違えやすいものとして挙がったことからも分かる。和語は日本語の基本的な部分をなすため，日本語を母語とするものにとっては，さほど大きな問題とはならない。しかし，基本的な語であるがゆえに，文脈に寄り添って意味が変化したり，特殊な語として用いられたりすることが多く，日本語学習者にとっては，揺れが大きくて意味を推測しにくいもの，つまり，習得しにくいものとして捉えられる。

今後，和語の持つ本質的なイメージを効果的に習得させるためには，多様な用例に基づいた的確な説明を繰り返し行うことが必要となって来よう。

注1：学部1年次に開講される授業であるため，2年次以上の者は最履修者である。また，大学院生に関しては，授業の本来の対象者に影響しない範囲で，指導教官の承認のもと，授業への参加を認めている。大学院生は単位にはならないため，自らの日本語学習意欲に基づく履修となる。

注2：受講を取りやめた2名は，ともに，1年次に在籍する中国人学生である。

注3：授業で素材として取り上げたのは，15～25分程度で1話が完結する，オムニバス形式のドラマ番組である。短時間で話が完結するこうしたドラマ番組は，起承転結がはっきりしているため，授業の素材として扱いやすいものである。また，1時間半という授業全体の長さを考えると，時間内に2回（事情により一部3回）見るには適当な長さであると言える。

注4：30分を越える遅刻をした者は，出席点は0でも，タスクを行って提出すれば課題点を与えている。当然，遅刻した部分の説明等は聞いていないので，高得点は出しにくい。

注5：タスク・シートを提出した者（解答した者）全員のうち何人が正解したかを%で示した。

注6：「万が一」を縮めた言い方であるため，正真正銘の漢語とは言えない。が，便宜的にここに含めた。「万一」を除くと，漢語で最も正答率が低かったのは「自称」で57%である。

注7：語句と語句の意味を結びつけるタスクは，10項目の質問用語句に対し20項目の解答を用意し，その中から正答を選ぶという形式で行った。原則的に，1つの質問項目に対して2つの解答項目（正答とひっかけ）が用意されていることになる。

注8：数年前の授業では，「粉薬を包んで飲みやすくするもの」等の説明を行えば，オブラートが何であるかを理解させることができた。国を問わず，錠剤やカプセル等が増え，昔に比べればオブラートで包まなければならないような薬が減ってきているのであろうか。